

五十年に原発事故20年

暮らす

折感じる外国人への懷疑のまなざしがない。みんな自らが下がっている。

「広島も放射線被爆を受けたんだ。遠いペラルーシまで医者が来てくれるなんてうれしいね。そつ、うちへ寄りとくれ。サマゴーン(自家製酒もあるんだよ)」女性は揚々と話し続ける。

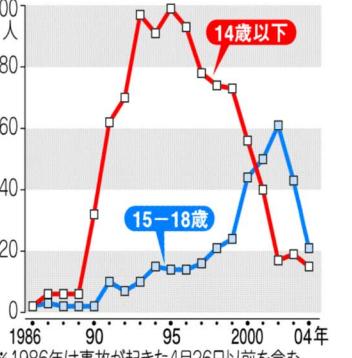
だろ。遠いペラルーシまで医者が来てくれるなんてうれしいね。そつ、うちへ寄りとくれ。サマゴーン(自家製酒もあるんだよ)」女性は揚々と話し続ける。

出産適齢期影響は不明

事故当時の子ども

多発する甲状腺がん

チャルノブリ原発事故後の甲状腺がんの発生数



※1986年は事故が起きた4月26日以前を含む。
ペラルーシ国内、ミンスク臨床悪性腫瘍病院まとめ

十五一十八歳で増え、二〇一年に最多となつた。放射線に汚染された物を食べるなどした

子どもたちが成長するにつれて、発生年齢も上がつたこと

いる。ただ、甲状腺がんは、深刻な問題だ」と指摘している

がんの中でも死亡率は低く、

見つかった場合は、放射性ヨードによる治療を受けて

いる。これが、胎児にどんな影響を及ぼすのか。人類が

見つかった場合は、放射性ヨードによる治療を受けて

いる。これが、胎児にどんな影響を及ぼすのか。人類が

見つかった場合は、放射性ヨードによる治療を受けて

いる。これが、胎児にどんな影響を及ぼすのか。人類が

見つかった場合は、放射性ヨードによる治療を受けて

いつまでも金や物を送り続ける援助はできない

被爆地広島から約八千里離れた小国ペラルーシに、ヒロシマの心が息づいていた。ボーランド国境に近いプレスト市。被爆者が十数近く、チャルノブリ原発事故の影響による甲状腺がんの治療・検診活動の拠点にしている。現地に根ざした医療支援とは何か。地域に深く入り込み、摸索しながら走り続けてきた武市らの活動と、活動の軌跡を追った(文)文中敬称略。(瀧川裕樹、写真も)

が列をうくる。先頭は、母の付き添いで来たという少女(10)。不安な表情を浮かべて順番を待つ

ペラルーシ西部プレスト市の地元内分泌センター。武市は三月上旬、ボーランド国境近くのこの街の病院で甲状腺がんの検診活動に訪れた。プレスト州を拠点にした検診活動は十年目を迎える。毎年

診察室前の廊下に朝から患者ら

が並んで来る。先頭は、母の付き

添いで来たという少女(10)。不安な表情を浮かべて順番を待つ

ペラルーシ西部プレスト市の地元内分泌センター。武市は三月上旬、ボーランド国境近くのこの街の病院で甲状腺がんの検診活動に訪れた。プレスト州を拠点にした検診活動は十年目を迎える。毎年

診察室前の廊下に朝から患者ら

が並んで来る。先頭は、母の付き